

戸ノロぜきは、どんなねがいによって、だれがつくったのでしょうか。

## 人々のねがいと当時の人々の努力

みんなは、戸ノロぜきがどんな地形のところにつくられたのかわかりました。秋子さんが、



「戸ノロぜきは、どんなねがいによってだれがつくったのですか。」

とたずねました。

そこで、先生からいただいたしりょうを中心として、くわしく調べてみることにしました。

### ① 戸ノロぜき年表

何年	できごと
1530年ごろ	・このころ、会津地方では、何か月も雨がふらず、日でのため作物がとれない年がたびたびあった。
1567年	・会津地方で作物がほとんどとれず、多くの人があえ死にする。
1623年	・八田内蔵之助が猪苗代湖から戸ノロぜき（八田野ぜき）をひく工事を始める。
1636年	・戸ノロぜきが八田野まで完成する。（八田野ぜきとよばれる。）
1657年	・花積弥市が戸ノロぜきを鍋沼から金堀、上長原へのばす。
1693年	・古川惣治衛門が、戸ノロぜきを若松の町までのばす。若松の米のしゅうかくが大はばにふえる。（戸ノロぜきとなる。）
1780年ごろ	・このころ会津地方で日でのため、作物があまりとれない年がたびたびあった。
1833年	・全国的に作物のできがわるく、会津地方では、4年間作物がとれず、多くの人があえ死にする。 ・佐藤豊助を中心に戸ノロぜきの水をふやす工事が始まり、2年後完成する。